

令和6年度の取り組み

- 1 子ども自身が振り返り修正する「土台ステージ」、対話で高め合う「成長ステージ」、感謝を表す「希望ステージ」で、一人一人がかがやき、認め合い、安心して自己実現できる学級づくり
- 2 居場所づくりと絆づくりで、自信と希望を高める「仲間づくり」
- 3 思考と基礎学力定着で確かな学力をつける「学びづくり」

令和6年度の児童の実態

- 1 多様性を認める姿と言語の壁
児童が考えたキーワード「きたしょう神獣（アニマルズ）」を具体的な姿として共有し違いを認め合う力が伸びている。言語別グループの固定化による交友関係が新たな課題である。
- 2 目標に向かって取り組む力の向上
「希望の木」「ボイスシャワー」当番・係・遊びなど通して、目標に向かって、できることを考え、挑戦する力がついている。
- 3 主体性の向上
授業の「めもま（めあて、もんだい、まとめ）」の定着、北っ子ソング、北っ子ダンス、フラワーパワー大作戦、JA 夢咲との食育、田子重お弁当コラボ、命の学習など、学校の枠を超えた活動を通して、「もっと関わりたい」という意欲につながっている。
- 4 安全・安心な「思いやり環境」の更なる定着
相手を思いやる言葉遣いや行動などみんなが気持ちよく生活できる「思いやり環境」について、子どもたちが考え、話し合う力を向上させる必要がある。

岳洋学舎教育目標（令和2年度～）
自信をもち 自分の力を発揮する子

重点目標 「気づき 考え 挑戦する子」 きめ太 だまるん ミルキ アウプ

めざす子供の姿を実現するための学校の姿

- (1) 共に自己肯定感を高める学校
成果指標「みんなで何かをするのは楽しい」と肯定的評価をする児童 90%以上
- (2) 児童が主体的に学ぶ学校
成果指標「授業に主体的に取り組んでいる」と肯定的に評価する児童 95%以上
- (3) 地域とともにある学校
成果指標「地域や学校をよくするために何をすべきかを考えることがある」と肯定的評価をする児童 70%以上

「気づき 考え 挑戦する」PDCA サイクル

よりよくなるための種に「気づき」、芽を出す方法を「考え挑戦する」1学期
成長している葉に「気づき」、花を咲かせる方法を「考え挑戦する」2学期
自分達が実らせた実「気づき」、次につなぐ方法を「考え挑戦する」3学期

生徒指導 2本柱「自己肯定感向上」「思いやり環境」

「思いやり環境」と「危機管理の日常化」で安心・安全で楽しい学校を実現する。
「挑戦の木」とボイスシャワーで「自己肯定感の向上」をめざす。

学びづくり部

自分達のよさとよりよくなるためのめあてに気づき（きめ太）、より深くかかわるための方法を考え（だまるん）、挑戦する（ミルキ・アウプ）「学びづくり」

- ア 主体的に考え深める単元構想で自発的な対話を生む授業「授業のめ・も・ま」と北小アニマルズ活用で分かりやすい授業をめざす。
- イ 学ぶ姿勢、授業準備、温かい聴き方・反応、相手を意識した話し方、様々な考えに触れるかわり度で、将来にわたる学びの基礎をつげ学力向上をめざす。
- ウ 人・地域・自然に触れて学ぶ「総合的な学習の時間」

仲間づくり部

自分達のよさとよりよくなるためのめあてに気づき（きめ太）、よりよくかかわるための方法を考え（だまるん）、挑戦する（ミルキ・アウプ）「仲間づくり」

- ア 思いやり環境と危機管理の日常化
どうすれば「思いやり環境」になるのか「気づき 考え 挑戦する」みんなが気持ちよく過ごせる環境、言語や文化の壁を越えたかわりの環境等）危機管理の日常化
- イ 児童発の活動
北小のよさ「かわわり・アイディア名人」を引き継ぎ進化させ、新しい取り組み（言語や文化の壁を越えた関わり）に挑戦する。

地域とともにある学校をめざす「岳洋学舎連携」

